

優秀賞 受賞

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校

高校名	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校	所在地	千葉県鎌ヶ谷市
団体名	鎌西1年2組		
活動タイトル	地域を巻き込め！「服のチカラ」プロジェクト		
活動の分類	授業の一環 高校の有志	授業の課外活動 校外の環境活動団体	生徒会委員会 クラブ活動 その他（クラス）

<環境活動>

1. 活動のねらいとこれまでの活動（テーマ、ねらい、きっかけ、昨年度までに行ってきたこと、その成果など）

自分たちにとって日常の当たり前を受け取っている恩恵が、当たり前ではないこと、広い世界を知って視野を広げ、その上で、今自分にできることを考え、実際に行動に移す能力（考えて行動につなげる力）の育成を目指す。

また、クラスの仲間や地域と協力して（つながって）できることの大きさを体験から学び、企業や地域社会とつながって自分が生活し、行動が広がるのだということを実感する。そこからやりがい、達成感を得る。地域と共に、世界を視野に生きることの大切さを学習する。

今回株式会社 ユニクロによる“届けよう、服のチカラ”プロジェクトへの参加と文化祭での発表及び地域での活動を1年2組がクラス単位で長期的に（6月末より11月まで）行うことで、参加する生徒のボランティアへのかかわり方を深めることはもちろん、ユネスコスクールである全校生徒への意識づけをし、今後の本校でのボランティア活動（クリーンロード大作戦、書き損じハガキの回収など）への参加者を増やしたい。



2. 活動の詳細（今年実施した内容、手法、着眼点、地域との連携、協力・協調など）

活動の流れ

①6月23日（金）出張授業（ユニクロ新鎌ヶ谷店オーナーによる）
世界の難民について、ユニクロの取り組みについて、ボランティア活動の流れ説明

②校内・地域（小中学校、幼稚園、保護者の職場など）への呼びかけ

1. 校内各クラスへ呼びかけ

7月14日（金）帰りのHRで全クラスにポスターの掲示依頼と呼びかけ
教科指導室にポスターの掲示依頼

1-2ロッカー前にボックス設置、1F事務室前にボックス設置

2. 地域への呼びかけ

7月11日（火）～20日（金） 学校関係（生徒の出身小中学校）

スライド 1

環境再生保全機構1 高校名と揃える？
環境再生保全機構, 2018/02/21

<環境活動>

～8月31日(木) その他機関

ポスターや回収BOXを作って掲示、設置させてもらう

鎌ヶ谷市役所、栗野児童センター、くぬぎ山児童センター、栗野保育園、道野辺保育園、北部公民館
(海保、荒、赤羽)新鎌ヶ谷駅 (9月15日(金)15:30～18:00生徒5～7人)

依頼協力 鎌ヶ谷市役所環境課 春日さん、子ども支援課 工藤さん、都市計画課 大野さん

3. 母校(出身保育園、幼稚園、小中学校)訪問

鎌ヶ谷市 中学校 鎌ヶ谷中 鎌ヶ谷二中
小学校 鎌ヶ谷小学校、中部小学校

柏市 中学校 第二中学校 中原中学校

小学校 逆井小学校

幼稚園 くりの木幼稚園

白井市 中学校 南山中 大山口中

小学校 池の上小学校、第一小学校

松戸市 中学校 第三中学校 第四中学校、第五中学校
牧ノ原中

小学校 八ヶ崎小学校

船橋市 高根中 二宮中 法田中

9月 詳細を持参し担任が直接挨拶に伺う

4. Twitterアカウント作成

Twitterからも呼びかけをする。本校HPと連動(岩橋)

私たちのチカラ@volunteerwar

③お礼の品作成

回収に協力してくれた方に 生徒が作ったジャムをお礼に渡す(10月31日最終回収でお礼と共に渡す)

★販売でない場合、保健所への届けはいらぬそうです

ジャムづくり 8月28日(月) 9:00～12:00

本校 調理室にて

とまと&ベリー ファーム こがねや さんに 指導、助言いただく

(鎌ヶ谷市軽井沢2126-34)鎌ヶ谷市役所 農業振興課の紹介

また、PCルームにてラベルをつくる(紙でづくり、のりで貼る)

必要なもの

ミキサー1

皮むき器(生徒持参) 家庭科調理室で借りる

包丁2、まな板2

厚手のゴム手袋 購入予定

100グラムビン50本

ファームこがねや さんに お借りするもの

蒸し器

参加生徒5、6名の予定

④9月15日(金)15:30～18:00 新鎌ヶ谷駅前呼びかけ、チラシ配布(340枚)

⑤9月16日(土)一般公開 文化祭で研究発表(船橋よみうりの取材を受ける)

一時回収9月8日(金)～13日(水) 生徒が回収

最終回収10月31日(火) 生徒が回収

⑥11月11日(日) 聖徳大学 高校生の体験発表会参加

最終回収後、本校よりUNIQLOに発送、UNIQLOが現地へ発送

<環境活動>

3. 活動の成果（今年実施した活動の成果、影響、目標達成、改善度、情報発信など）

成果 難民に送った子ども服は3200枚以上（11月5日現在、まだ回収が終わっていない）

①本校生徒のボランティア活動への参加が今年の約3倍

②新しいボランティア活動を始めている

六実っ子見守り隊（通学中に名札を付けて、挨拶を積極的にする。心配な様子の小学生に声をかける）

公民館でのワークショップ（美術部・科学部）

公民館のお祭りボランティアスタッフ（1学年を中心に）

ツイッターでの情報発信から声をかけられる喜び、自ら動くことで応えてくれる地域とのつながり、他者とのつながりを感じることでできた。自信につながった。また、幼稚園や小学校、中学校を訪問することで、自分のルーツというか守ってくれている環境への思いを改めて考えた。

学校間のつながりも強くなり、市役所の環境課、クリーン推進課、農業振興課、子ども支援課など様々な課が協力してくれて成り立った活動であり、市内児童センターや保育園への声掛けや、駅前の利用許可、梨農園の紹介、市内のごみ問題への効果を市がバックアップしてくださったことにより話がすんなりと進んだことは大変ありがたくこれから私たちが活動を進める上での財産である。

自分たちの活動に協力してくれた児童のために、夏休みの自由研究ワークショップを企画したり、インターシップで保育体験をしにいたり、地域へのつながりを感じられたことはよかった。新聞報道もされて、他校のPTAのかたから電話をいただき来年度は一緒に活動したいという声をきいたり、場を越えたつながりが強くなったことは今後の活動に大きくプラスになると考える

来年度はさらにクラス単位から学年単位に活動する人数を増やしていきたい。

4. 活動からの学び（今年実施した活動を通じて学んだこと、今後の計画や目標など）

ボランティアによってみんながとても生き生きとした表情になるということ。自分の通う学校に、自分自身に自信が持てない=行動に移せない 自分でもチラシを配り、「私たちなんかのチラシを受け取って質問してくれた！」と本気でうれしかった。ボランティア活動、人のために何かをするという活動は人を成長させるのだとおもった。

梨ジャムを作ろうとかツイッターをやろうとかみんなが出した案が全部大変だったけれどできて、すごく喜ばれて、うれしかった。

以上